

# しいのき



中野区立歴史民俗資料館上空より

## 新年を迎えて

名誉館長 三 隅 治 雄

明けましておめでとうございます。当館も2度目の新春を迎えて一同胸をふくらませております。昨秋は当館設立の恩人山崎家の千枝夫人が日本博物館協会から功労者の表彰を受けられましたが、地域文化への貢献を念じる夫人の思いはまたわれわれの思いでもあります。目をやるとその山崎家の庭にそそり立つ椎の木が、数百年を経ながら、今年もなお緑の若さを失わずにいるのが印象的です。60や70歳で老いを嘆く人間から見て、なぜかくも若さを保つかが問われますが、要は地中に広く深く張った根の強靱さが、その活力の源泉でありましょう。当館にそれを引きつけて申せば、区民の知識と心の糧として地域生活に根を張ることがたいせつで、館員それぞれが区民との交流を密にする諸事業に取り組んでいるのもそのためです。御期待下さい。

# 文化財よもやま話

## 節分・鬼と豆

節分の日には、「鬼は外、福は内」と唱えながら豆をまく習慣があります。このように、鬼をはらう「鬼やらい」という行事については、大晦日に行われた追難（ついな）に由来するといわれています。追難は、文武天皇のときに疫病が流行したのでそれを鎮めるための儀式が執り行なわれたのが始まりといわれ、宮中の恒例の儀式となりました。



▲亀戸天満宮の追難『東都歳事記』

室町時代に入ると、節分の日には豆をまくという記録がみられるようになり、さらに江戸時代には、各地の寺社や一般家庭にまで豆をまいて鬼をはらうという習慣が広まります。ちなみにエレキテルで有名な平賀源内は「福内鬼外」のペンネームで浄瑠璃を書いています。

豆をまくのは、それが邪鬼を打ち払う呪能（目つぶし）をもっているからだといわれています。そればかりでなく、豆は「まめにこつこつと暮らせるように」という願いがこめられているという縁起のいい食べ物として、米と同様に大切にされています。



▲節分の日におこなわれる宝仙寺・僧兵行列

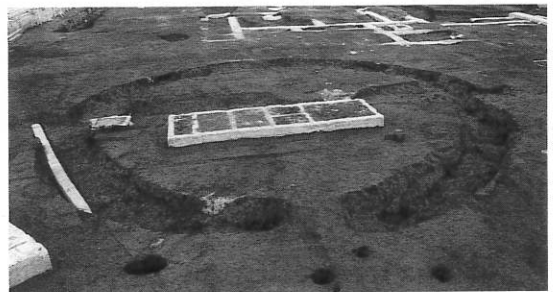
# 大地に眠る歴史

## はじめておめみえ中野の古墳

弥生時代に成長してきたムラは、やがて水田を多く持ちたいため、隣のムラや近くのムラなどと戦いをしながら、統合され、ますます大きなムラになっていきました。こうしてこれらのムラの指導者（首長）は大きな力を持つようになったのです。彼らが死ぬと、方形周溝墓という特別な墓に葬られるようになりますが、やがて、これではすまなくなり、小山のような丘を盛り上げる巨大な墓を造るようになりました。これが古墳です。そして、古墳が造られるようになった時代、つまり今から約1700～1350年前くらいの間を古墳時代と呼びます。

ところで、私たちが今住んでいる中野は、この頃どんな様子だったのでしょうか。

今まで、考えられていた古墳時代の中野は、中野神明小学校校庭遺跡や向田遺跡、平和の森公園北遺跡や新井3丁目遺跡など、6世紀から7世紀にかけてのムラの跡は発見されていますが、古墳は見つかっておらず、力の強い首長はいなかった地域とされていました。



▲遠藤山3号墳

ところが、1990年に発掘調査された、上高田5丁目の遠藤山遺跡から、6世紀前半の円形の古墳、つまり円墳が3基発見されて、中野にも力の強い首長がいたことが明らかになりました。

写真に示したのはそのうち3号墳と呼んでいる古墳ですが、円形の溝の手前が切れて陸橋状になっています。この陸橋の部分がお葬式の儀式をおこなうところで、おそなえの土器も発見されています。小山のような丘の部分ですでになくなっていたのは、とても残念です。

# 古文書つづり

## 時の鐘

“タイム・イズ・マネー 時は金なり”

これは時間の大切さを教える昔からのことわざですが、日々一刻ごとに変化する現代社会においでますます価値を増している「金言」の一つといえましょう。

さて、時計が普及する以前、江戸時代から明治始めにかけて人びとはどのように時刻を知り、生活していたのでしょうか。簡単な方法は太陽の高さから判断できますが、普通には江戸町内9ヶ所に設置された「時の鐘」の音で聞きわけていたそうです。でも、中野あたりでは一番近い四ッ谷からの鐘音もよく聞こえなかったので、中野の人びとは正確な時間を知るのは大変苦勞したようです。

明治2(1869)年、江古田村の蓮華寺に「時の鐘」を設置する計画が蓮華寺と関係者から発案され、写真の古文書のように村内の賛成を求める書類が



▲明治2年7月江古田村山崎喜兵衛宛差入一札

出されました。この結果、蓮華寺の「時の鐘」は村内はもちろん近隣の村々からも同意を得て設置され、板橋、練馬、豊島あたりまで響き、人びとに正確な時刻を知らせたのでした。

当時の人びとにとって、まさしく“タイム・イズ・ベル 時は鐘なり”だったようです。

## 中野往来

### 路傍の石仏

路傍でよく見かける石仏の中に庚申塔と馬頭観音音とがあります。

庚申塔には、忙しい時に「庚申さんの手がほしい」といわれるほど手が何本もある青面金剛像や鬼、鶏など、いろいろな彫り物があり、これらを見つけるのも楽しいものです。

馬頭観音は、像の額の真中に馬頭が彫ってあり、これが目印になります。馬が野原の草を食いつくすように私たちの悩みごとなどを食いつくし、願いごとをかなえてくれるそうです。



▶ 庚申塔



◀ 馬頭観音

## 中野昔話

### 甲武鉄道(中央線)の反対運動

話者：区内中野 男 明治42年生

今の中央線(甲武鉄道)ね、あれは、向こうを通ることになっていた。青梅街道を。みんな農家がね、麦わら屋根だったんですよ。すると、汽車がね、煙を吐くでしょう。火の粉ができる火事になっちゃうってわけで、反対したんだんですよ。

ところが、この辺(中野駅周辺)のかたは、新しく来られたでしょう。それだから、全然反対がなかったらしいんだ。で、ひいたところが、電信隊ができ、何やできて、こっちが栄えちゃって、向こうがさびれてしまった。

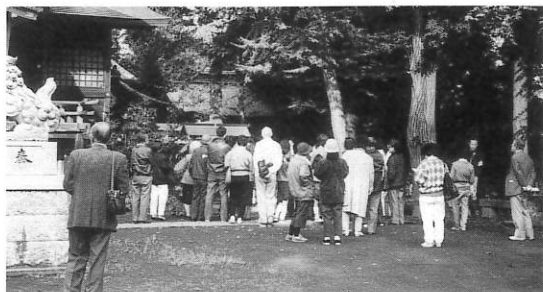
『中野の昔話・伝説・世間話』から



# 事業報告

## 各種事業経過

事業名	内容	期間
古文書講座	Aコース／入門コース第2期 Bコース／入門コース	10/6～10/27 11/4～12/23
企画展	「古伊万里－紺碧の美」	10/2～11/17
ミニ展	「西の市と熊手」	11/1～11/30
史跡めぐり	「鷺宮コース」 解説者：和栗文化財調査員	11/25
埋蔵文化財調査	遠藤山遺跡 発掘・資料整理 鷺宮四丁目 民有地試掘立会 野方五丁目 再開発事業用地試掘 江古田四丁目都営住宅用地試掘	継続中 10/3 11/2～12/11 11/19～12/14
資料貸出	大阪市立博物館特別展「花の民俗」に『江古田獅子舞巡行絵巻』 江戸東京400年記念「甲州街道展」に浮世絵『調布多摩川』	9/20～11/23 11/1～11/27



▲ 史跡めぐり「鷺宮コース」巡行風景

## 寄贈資料一覧

1990年5月～90年9月  
敬称略・受入順

資料名	点数	氏名
幕末～大正期の双六	12	中村 トミ
水組小函	1	吉次 義英
和菓子製作道具	一式	小林 準平
タイプライター 他	27	丸山 幸三
五月人形飾り 他	341	細井 純一
防火用水・鳶口	2	岩瀬 文人
明治43年茶畑写真他	2	須藤 亮作
牛犁	1	早船 時良
富士講道具一式 他	35	篠崎 吉紀
直良信夫博士著書	5	桜沢 一昭
鍋屋石橋	1	江藤 春雄
子供用学習机 他	多数	中村 順治
二重まわし・火鉢 他	32	牲川 房代
戦時中の鉛筆・用紙他	6	三野輪 幸節
雑誌『古文幻想』	2	大沼 ハツ

## NEWS

昨年10月に金沢市で開催された第38回全国博物館大会において、当資料館の用地・資料提供者山崎千枝氏は、博物館活動への援助など多大なる功績により日本博物館協会から表彰を受けました。

1月1日から当館の電話とファックスの番号が次のとおり変更になりました。

電話 (319)9221 → (3319)9221

ファックス (319)9119 → (3319)9119

\*ミニ展予告\* おひなさま展

2月2日(土)から3月3日(日)まで

会場 二階企画展示室

## 入館状況

1990年10月～12月 (72日間) (人)

一般	行政視察	学校教育	合計
7,379	348	1,307	9,034

発行年月日 1991年1月1日

山崎記念  
編集・発行  中野区立歴史民俗資料館

中野区江古田4-3-4

☎ 03(3319)9221

FAX 03(3319)9119

(印刷物登録番号 2中教社第10号)